

創造主を畏れるなら

(箴言3:1~12)

一、はじめに

旧約聖書の舞台となったメソポタミア、古代エジプト、ウガリット(＝シリアの北西部にあつた古代王国)には、知恵を大切にする文化がありました。当然のことながら、イスラエルにも「知恵を大切にす」考え方が入ってまいりました。こうしてイスラエルにおいて結晶したのが、「主を畏れる(恐れる)」ことは知恵、ないしは知識の初めである」という知恵でした。

二、知恵とは何か？

知恵とは何なのでしょか。箴言には「英知」(2・2他)とも「分別」(2・3他)とも表現されています。イスラエルが見いだした知恵は、と申しますより、主がイスラエルに授けられた知恵は、主を畏れる(恐れる)ことでした。こういうわけで、親は子供たちに主を畏れる(恐れる)ことを教え、あるいは、教師は生徒たちに主を畏れる(恐れる)ことを教えました。教えるとは、子供たちが、あるいは生徒たちが自分自身で主なる神を畏れ敬うことを知り、そうするようにと心底願うときに、教え、教えられたこととなります。

三、何を用いて教えたか？

では旧約の人々は、自分の後の世代に「主を畏れる(恐れる)」ことを教える際に何を用いたのでしょうか。聖書です。聖書を暗記させました。意味は分からなくても聖書の言葉を覚えさせたのです。そうしますと、覚えた言葉は繰り返し心の中に思い浮かんでまいります。こうして、教えられたり、ハッとさせられたり、自分がそらんじた言葉がどういう意味かと考えたりします。「覚える」には、そのような効果があります。聖書を見てまいりましょう。1節です。〈わが子よ。私のおしえを忘れるな。私の命令を心に留めよ。〉と書かれています。〈私〉とは、だれでしょうか。子供に聖書を教える親でしょうか？生徒に聖書を教える教師でしょうか？それとも神でしょうか。答えは、親であり、教師であり、神である、と思われま

す。親は、教師は、聖書によつて神の教えを受けているがゆえに、〈わが子よ。私のおしえを忘れるな。私の命令を心に留めよ。〉と語り、子供は、そして生徒は、その言葉を神からの語りかけと受け止めたわけです。

四、聖書の中心

「箴言」は、古代イスラエルが生み出した文書です。旧約の人々にとって聖書の中心は、「律法」と呼ばれる「創世

記」「出エジプト記」「レビ記」「民数記」

「申命記」でした。すなわち、旧約聖書の始めに置かれてある五つの書です。これらを中心に、旧約聖書の様々な文書があると受け止めたらしいです。

では、キリスト教会にとって聖書の中心は何なのでしょう。イエス・キリストです。なぜなら、イエス・キリストこそ、旧約聖書が指し示している方であり、神の子、また罪からの救い主であると信じるからです。それは、主イエスが語られた言葉の中にも見いだすことができます。ルカの福音書24章44節です。〈さて、そこでイエスは言われた。

「わたしがまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことばはこうです。わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就するということでした。」これは、十字架にかかつて死に、復活させられたイエス・キリストが、弟子たちに対して語られた言葉です。

五、キリストの福音が土台

それを確認した上で、元の箇所に戻ります。箴言3章1節です。〈わが子よ。私のおしえを忘れるな。私の命令を心に留めよ。〉です。〈わが子よ〉は、誰が誰に呼びかけているのでしょうか。父・子・聖霊なる神が私たちに語っておられる言葉です。同時に、信仰の導き手が求道者に向かって呼びかける言葉です。

では、主なる神は、何を呼びかけておられるのでしょうか。〈わたしのおしえを忘れるな。わたしの命令を心に留めよ〉です。〈わたしのおしえ〉とは、「主なる神を畏れ(恐れ)なさい」です。あるいは、パウロが語った言葉、〈私があるあなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであつて、次のことです。〉(一コリント15・3a)

と語った、キリストの善き知らせのことです。すなわち、〈キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと〉(一コリント15・3b~4)です。信仰とは自分が信じたいように信じることではありません。これまで信じられてきたことを、改めて信じることです。そこに、神の祝福が現れます。箴言3章2節です。〈そうすれば、あなたに長い日と、いのちの年と平安が増し加えられる。〉 私たちに当てはめるなら、「私の人生は神のご支配の中で支えられている」と確信することです。もう少し大きく捉えるなら、「この国は神のご支配の中で支えられている」と受け止めることです。

信じる者は、どこに行っても、どのような状況に置かれようとも、道は開かれている(廿これから開かれる)と思えているはずで、神を畏れる者にはそういう賜物が授けられています。